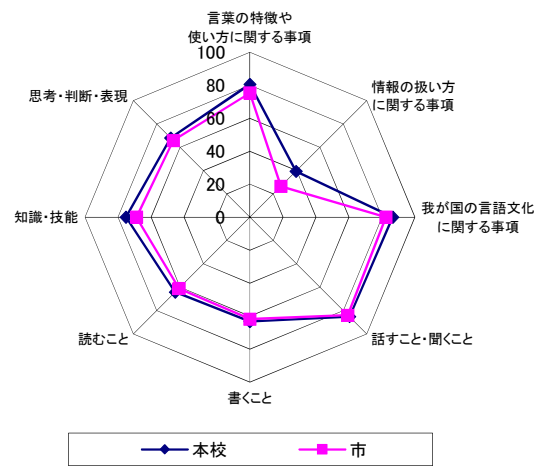


宇都宮市立昭和小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	80.6	75.3	77.1
	情報の扱い方に関する事項	39.4	26.5	27.8
	我が国の言語文化に関する事項	86.5	82.4	81.0
	話すこと・聞くこと	85.3	83.9	84.2
	書くこと	63.1	61.7	64.5
	読むこと	64.1	60.9	61.0
観点別	知識・技能	75.1	68.8	70.3
	思考・判断・表現	67.9	65.8	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

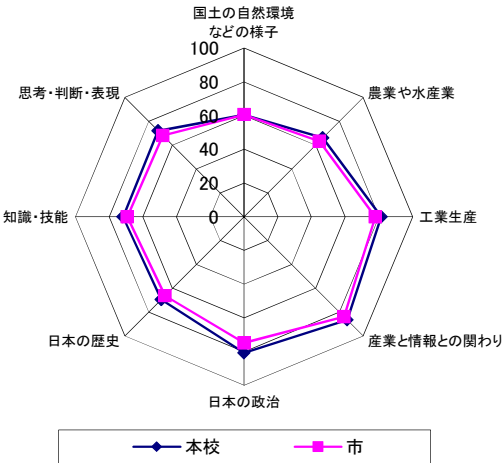
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や 使い方に関する事項	○平均正答率は、80.6%と市の平均を5.3ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きについては、どの問題も正答率が高く、市の平均を上回った。 ●「敬語について理解し、正しく使っている」をねらいとした問題では、正答率は市の平均とほぼ同じだが、51.9%と低かった。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・普段からの漢字の学習を習慣的に行うとともに、作文等で日常的に漢字を使って書く機会を増やしていくことで、漢字の読み書きを十分に身に付けられるようにする。 ・目上の人と話すときやお礼の手紙を書く活動等の中で、場面に応じた言葉遣いを意識させながら、敬語を正しく使えるよう指導していく。また、敬語についての理解を深め、場面にふさわしい適切な敬語を用いることができるよう指導の工夫をする。
情報の扱い方 に関する事項	●平均正答率は、市の平均を大きく上回っているが、39.4%と低い正答率となった。 ○「情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている」をねらいとした問題では、正答率が53.8%と高くはないが、市の平均を大きく上回った。 ●「情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している」をねらいとした問題では、25.0%と正答率が低かった。	・情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理することができるように目的に応じて文章を簡単に書く力を中心に学習する必要がある。 ・目的をもって文章を簡単に書く機会を設けることで、簡潔に伝えるために必要な情報を読み取り、目的に合わせて自分の考えを書けるようにする。
我が国の言語文化 に関する事項	○平均正答率は、86.5%と市の平均を4.1ポイント上回っている。 ○「語句の由来に関心をもち、和語、漢語、外来語について理解している」をねらいとした問題では、正答率が86.5%と市の平均を4.1ポイント上回っている。	・和語、漢語、外来語の区別についてはおおむね身に付いている。引き続き、言語学習の際に、和語、漢語、外来語の区別や、音読み、訓読みについても復習する機会を設ける。
話すこと・聞くこと	○平均正答率は、85.3%と市の平均を1.4ポイント上回っている。 ○意図に応じた質問の工夫を選択する問題では、92.3%と高い正答率となり、市の平均を上回った。 ●自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉える問題では、正答率が75.0%と市の平均を3.9ポイント下回っている。	・ペア活動やグループ活動の話合いの中で、相手の発言の意図を正しく捉えるとともに、話の要点を掴み、自分の言葉で表現し直す活動を取り入れることで、論理的な思考を育みたい。
書くこと	○平均正答率は、63.1%と市の平均を1.4ポイント上回っている。 ○文章を書く問題では、71.2%が2段落構成で文章を書くことができおり、市の平均を4.4ポイント上回っている。 ●「予想される反論とそれに対する意見を書いている」条件では、正答率が40.4%と市の平均を3ポイント下回っている。	・資料の活用や事実関係を文章に書くことはおおむね身に付いているが、表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように書く力について学習する必要がある。 ・自分の考えや意見について、表やグラフを用いて根拠に基づいて説明するような学習を重点的に行う。 ・自分の考えを主張する際には、予想される反論も同時に考えるなど、批判的思考を育む活動を取り入れていきたい。
読むこと	○平均正答率は、64.1%と市の平均を3.2ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取る問題では、正答率が市の平均を上回っている。 ●物語文の内容を読み取る問題では、正答率が市の平均を下回っている。	・説明文で、段落ごとに重要な語句を見つけ、短文にまとめる学習をすることで、要旨をとらえることができるようにし、それによって、まとまりごとの情報や関連を整理したり、関係性を理解したりできるようにしていきたい。 ・物語全体を見通すことができるようにするために、情景描写から心情を表す叙述を抜き出したり、なぜそのような心情だと考えたのか、根拠となる描写を探したりする学習に取り組めるようにする。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	60.4	60.5	65.8
	農業や水産業	66.0	63.3	66.0
	工業生産	81.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	86.5	83.8	76.6
	日本の政治	80.8	74.9	74.1
	日本の歴史	69.5	66.3	68.3
観点別	知識・技能	71.8	69.3	71.4
	思考・判断・表現	72.0	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

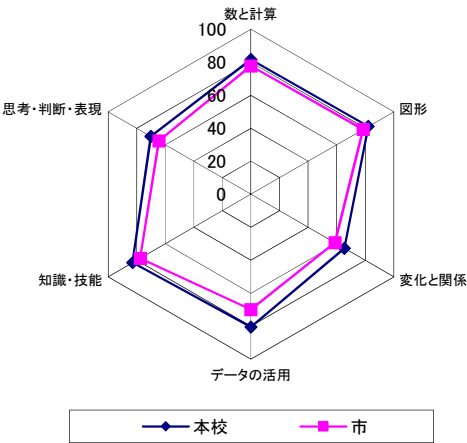
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	・平均正答率は60.4%で、市の平均を0.1ポイント下回っている。 ○国土の構成について、地図をもとに考え表現する問題では、市の平均を7.2ポイント上回っている。 ●公害についての理解を問う問題では、正答率が21.1%と低く、市の平均を4.9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・国内の地理についての理解を深めるため、白地図やICT教材等を活用して一層の定着を図る。 ・いろいろな国への関心を深め、地図上での国の場所や大陸などの名称について、視覚的資料を取り入れるなど、継続して学習できる環境を作る。
農業や水産業	・平均正答率は66.0%で、市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○米の品質を高める工夫についての理解を問う問題、外国との関わりにおける課題について考える問題では、市の平均を4.0ポイント上回っている。 ●日本の主な食料の自給率についての問題では、市の平均を0.2ポイント上回っているものの、正答率が36.5%と低い。	・日本の食料生産の課題について、生産量、輸入量などのグラフを読み取り、外国との関わりについてまとめる学習を通し、日本の食料生産について理解できるようにする。 ・グラフや資料から自分の考えを見出したり、考えの根拠となる資料を選択したりするなどの学習を通して、社会的思考力を高めていく。
工業生産	・平均正答率は81.4%と、市の平均を3.5ポイント上回っている。 ○日本の主な輸出品・輸入品についての理解を問う問題では、市の平均を10.8ポイント上回っている。 ●自動車の部品を再利用する目的について問う問題では、市の平均を4.2ポイント下回った。	・日本の工業生産の変化に対応できる柔軟な考えがもてるよう、児童の日常生活と関連して考えたり話し合ったりする機会を設ける。 ・自動車の生産工程や流通などの様子はデジタル教材を活用して理解を深めてきた。今後も実際に見学に行ったり、デジタル教材を活用したりして興味・関心をもたせ、知識を定着させていく。
産業と情報との関わり	・平均正答率は86.5%で、市の平均を2.7ポイント上回っている。 ○情報の発信と受信の注意点について考える問題では、市の平均を5.2ポイント上回っている。	・情報の伝え方とメディアの関連について触れ、情報伝達手段の多様さについて学習するとともに、教科横断的に様々な学習を通して、情報化社会の有益性と危険性を十分理解できるようにする。
日本の政治	・平均正答率は80.8%で、市の平均を5.9ポイント上回っている。 ○平和主義の基本的な考え方について問う問題では正答率が100%と、市の平均を6.4ポイント上回っている。 ●資料をもとに議会政治について考え、表現する問題では、市の平均を6.6ポイント上回っているが、正答率が59.6%であり、高いとは言えない。	・政治は、国民生活の安定と向上を図る大切な働きをしていることを理解するために、各種資料から読み取ったことをもとに、考えたことを自分の言葉で記述する機会を増やしていく。 ・日本国憲法の三原則については理解しているが、今後も、学習に関連した内容のテレビや新聞等の話題を児童にも分かるように紹介したり、資料を提示したりして、児童が興味をもって取り組めるような授業の展開を図っていく。
日本の歴史	・平均正答率は69.5%で、市の平均を3.2ポイント上回っている。 ○雪舟についての理解を問う問題では正答率が69.2%で、市の平均を15.6ポイント上回っている。 ●天皇中心の政治の様子や、日本風の文化が生まれたところの様子についての問題では、市の平均を12.1ポイント下回った。	・日本のおおまかな歴史や先人の業績、文化遺産などを理解するために、一人一台端末のAIDリルやeboardなどを活用し、繰り返し知識の定着を図っていく。 ・身に付けた知識をもとに、その他の歴史的な事象との関連や時代背景等についてなど、調べたりまとめたりする機会を繰り返し設け、理解を深めていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	81.6	77.7	78.6
	図形	82.1	78.4	74.4
	変化と関係	65.4	58.7	53.0
	データの活用	80.4	69.9	57.2
観点別	知識・技能	82.9	77.5	74.0
	思考・判断・表現	70.1	64.5	58.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

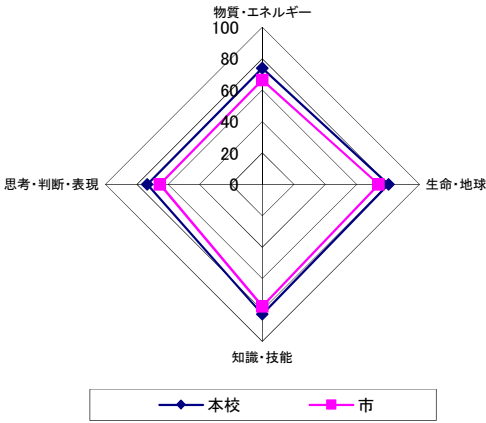
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○全体の平均正答率は81.6%で、市の平均を3.9ポイント上回った。 ○分数倍の比較量を求める設問の正答率は76.9%で、市の平均を15.4ポイント上回った。 ●小数同士の掛け算の答えを求める設問の正答率は73.1%であり、市の平均を6.7ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の四則計算は、少人数指導やドリル等での繰り返しの学習で、技能が着実に身に付いてきているので、AIドリル等を用いて、繰り返し学習し、更なる定着を図っていく。 ・小数同士の計算や、整数と小数の乗法や除法の場合の計算などについても反復練習をし、定着を図る。
図形	○全体の平均正答率は82.1%で、市の平均を3.7ポイント上回った。 ○ひし形の面積を求める設問の正答率は88.5%で、市の平均を12.7ポイント上回った。 ○四角形の構成の仕方について考察し、対称や立体を用いて答えを導き出すことに良好な状況が見られた。	・図形の特徴を理解している児童が多いものの、それを活用する問題では、個人差が見られた。図形を構成したり分解したりしながら操作する活動を多く取り入れて学習を進めることで、実感を伴った理解に結び付くよう支援していく。 ・図形の意味や性質をもとに、作図の仕方を考えたり、順序よく説明したりできるように、習熟度別学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
変化と関係	○全体の平均正答率は65.4%で、市の平均を6.7ポイント上回った。 ○百分率を理解し、割引後の値段を求める設問の正答率は76.9%で、市の平均を10ポイント上回った。 ○表から面積と人数の割合を求め、どのプールが最も混んでいるか求める設問の正答率は61.5%で、市の平均を6.6ポイント上回った。	・単位量あたりの大きさや速さを求める公式を確認し、身近な例を挙げながら体得できるような活動を取り入れるなどし、さまざまな問題を活用しながら、学習内容の定着を図る。 ・児童の実態に応じて、活用的な問題を解決する力も身に付けられるようにするため、習熟度別学習やAI学習を生かして個に応じた指導の徹底を図る。
データの活用	○全体の平均正答率は80.4%で、市の平均を10.5ポイント上回った。 ○ヒストグラムを用いて、平均値付近の記録を説明する設問の正答率は67.3%と市の平均を12.7ポイント上回った。 ●図に示された四角形の内角を求める設問の正答率は38.5%と低く、課題が見られる。	・自分の考えを記述してまとめる活動を取り入れていくことで、問題やデータの根拠として自分の考えをまとめられようにする。 ・他教科の学習などで、データを処理する機会を意図的に設定し、身近なデータを取り上げながら学習を進めていく経験を積んでいけるようにする。また、可能な限りICTを効果的に活用し、分析活動を充実させていく。

宇都宮市立昭和小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.9	66.5	66.3
	生命・地球	80.3	74.0	72.6
観点別	知識・技能	82.7	77.6	78.2
	思考・判断・表現	73.4	65.3	63.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	・本校の平均正答率は、73.9%と市の平均を7.4ポイント上回っている。 ○「未知の水溶液を特定する実験の方法を計画できる」をねらいとした問題では、56.9%と市の平均を24.1ポイントと大きく上回っている。 ●「電磁石のはたらきが電流の大きさや導線の巻き数によることを理解し、おもちゃの車の走る距離を推測できる」をねらいとした問題では、正答率は58.8%と、市の平均を11ポイント下回っている。	・今後も児童が興味をもてるような授業の展開を図るとともに、課題に対する予想、実験、結果、考察というそれぞれの活動で主体的に考えをもてるよう、言語活動を取り入れながら、科学的思考を養っていく。 ・実験の道具の使い方や流れ、方法などを繰り返し確認しながら実験するよう指導する。
生命・地球	・本校の平均正答率は、80.3%と市の平均を6.3ポイント上回っている。 ○「アメリカザリガニが水草を切ることによる影響を指摘できる」をねらいとした問題では、68.6%と市の平均を14.8ポイント上回っている。 ●「くきを縦に切った時の断面のようすを理解している」をねらいとした問題では、58.8%と市の平均を4ポイント下回っている。	・「植物のつくりとはたらき」において、植物の水の通り道について理解を深めるために、実際に観察・実験をするとともに、デジタル教材を活用することで、知識を十分身に付けられるようにしていく。 ・授業において、AIドリルを活用しながら学習内容を確認し、基本的な知識の定着を図っていく。

宇都宮市立昭和小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
児童が自ら考え分かりやすく表現できる児童の育成	自分の考えを伝える際、その根拠となる事項や情報を明確にして、話したり文章にまとめたりするよう指導している。	国語の「書くこと」についての平均正答率は63.1%と市の平均を1.4ポイント上回る。また社会の記述式の問題の平均正答率は、59.6%と市の平均を6.6ポイント、算数の記述式の問題の平均正答率は67.3%と市の平均を22.7ポイント、理科の記述式の問題の平均正答率は64.7%と市の平均を3.5ポイントそれぞれ上回った。
家庭学習の習慣化に向けた指導の工夫	年に2回学力アップ月間を設けている。各学年ごとに家庭学習に取り組む目標を決め、「がんばりカード」に取り組んだ内容や時間を記入し、家庭でも確認してもらうことを通し、家庭との連携を図りながら、家庭学習の習慣化を図っている。	「宿題をやり期限までに提出している」に対する肯定的回答は90.3%で市の平均と同程度となった。また、「自分で計画を立てて、家庭学習に取り組んでいる」に対する肯定的回答は、63.6%で市の平均より2.1ポイント低く学年による差が27.9ポイントある。「保護者の学習への関心や関わり」に対する肯定的回答は88.6%と市の平均と同程度だった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

各学年とも、学習のねらいを達成するために意欲的に取り組む様子がうかがえる。家庭学習においては、取組の時間や内容に個人差が見られるので、学年始めに家庭学習の仕方について共通理解を図る場を設けたり、学力アップ月間をきっかけとして年間を通し意欲的に取り組んだりできるよう、家庭とも連携しながら指導の充実を図っていく。

国・県・市の結果を踏まえ、当該学年の学習に関する指導だけではなく、単元の導入時に前学年までの関連事項の定着状況を把握し、必要に応じて復習をする機会を設けるようにする。

根拠をあげて自分の考えを述べたり、挙げられた考えの根拠を考えることに関する力をつけるために、授業で学んだことを、他の教科でも生かすような指導に努めたり、学習したことをまとめる活動では、学年に応じて、キーワードや条件などを設定して書くようにする活動を取り入れたりすることにより、自分の考えを分かりやすく伝えるスキルを身に付けられるようにする。また、自分の考えを書いたり述べていたりする際には、その根拠となる事項を明確にすることを、授業の中で意識して扱うようにすることを継続して指導していく。